

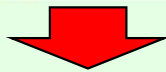
## 手立て1 児童の実態把握をするためのアンケート

### アンケート結果からの苦手意識への対策と対応

本校の児童の実態として「将来外国の方とコミュニケーションをとりたい」と考える児童は他の項目に比べ、やや低い傾向にあることが分かった。そこで、休み時間に『English time』を設定し、外国語活動室で英語のDVDや絵本を見たり、ALTと話したりする時間を設けた。授業とは違った雰囲気でき自由に話すことができ、外国の方とコミュニケーションをとろうとする雰囲気が生まれるきっかけになった。



【令和4年4月実施3年生】

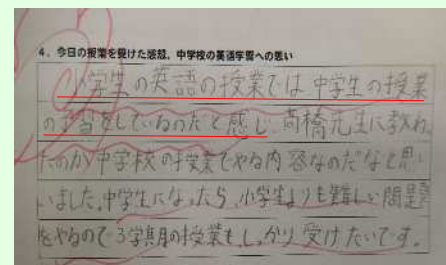


【令和4年12月実施3年生】

肯定的な意見が増えた

### 実態に即した、授業改善

5年生、6年生のアンケートには「中学校での英語は楽しみですか」という追加項目を実施した。「外国語の授業が好き」と答える児童が多い一方で、中学校で楽しみと答えた児童は低い傾向であった。そこで中学校から英語の先生を招き、6年生児童対象に授業を行っていただいた。授業後に行った振り返りでは、「小学生の英語の授業では、中学生の授業の予習をしているのだと感じた」と記述する児童がおり、『これまでの学びが中学校の英語の授業につながっている』ことを知り意欲を高める様子がみられた。



## 手立て2 教員の意識調査

### 教員アンケートの結果からの研修内容と実践

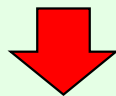
教員アンケートの結果を踏まえ、外国語の授業の流れを明確にするために外国語活動主任による示範授業を行った。外国語の授業を行うことに苦手意識をもっていた教員も、授業の進め方を知ることができ、教材研究などに生かすことができるようになった。

また、毎週行われる職員打ち合わせでは、学年で外国語の教材研究を行う時間を確保した。5分間と短い時間だが、本時のねらいを確認するとともに、見通しをもって授業をすることができるようになった。



【令和4年4月実施】

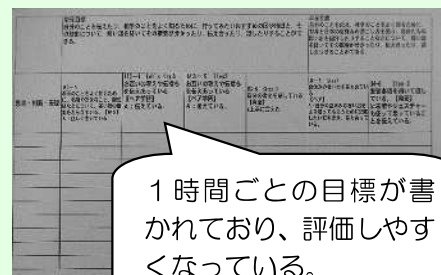
苦手意識が「ある」と答えた教員がいなくなり「少しある」「あまりない」と答えた割合が増加した。



【令和4年12月実施】

### 評価方法についての共通理解

教員アンケートの結果から、評価方法について見直しを行った。これまでは単元の終わりに行う「単元テスト」で評価することがほとんどだったが、毎時間に評価する「評価シート」を作成し、日々の授業でも積極的に評価できるようにした。また、パフォーマンステストやグループなどで行うやりとりもタブレット端末を使って記録して評価するようにした。このように様々な面から評価を行ったことで、これまでの評価方法と比べて、教師の指導改善、児童の学習改善につながるものになっていった。



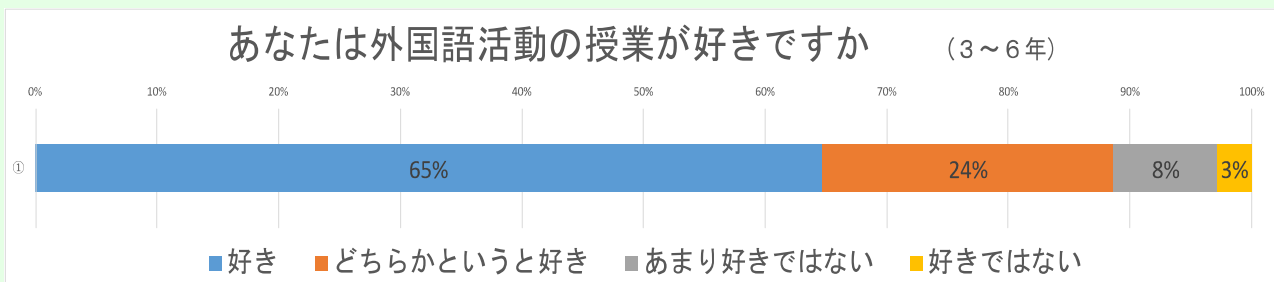
### 授業内でのスモールトークの充実

既習表現を繰り返し使用できるようにし、その定着を図るためにスモールトークを積極的に授業に取り入れた。その際、環境整備部が作成したスモールトークの台本をもとに計画的にALTとスピーチを行うようにしたことで、児童も日本語モードから英語モードに切り替えることができるようになっていった。ALTとのやり取りなどを難しいと感じていた教員が多かったが、意識調査の結果では肯定的な意見が多くなった。

### 3 研究全体のまとめ

#### 成果

- 全教職員で研究を行ったことで、英語が楽しいと感じられる指導の充実を図りながら、外国語科における授業スタイルを確立することができた。
- 校内の環境整備を整えたことで英語を身近に感じることができ、外国語の授業により前向きに取り組む姿が見られるようになった。
- 児童の興味を引く掲示物等について各学年で十分話し合ったことで、発達段階や日ごろの授業に即した掲示物等を作成できた。
- 児童の実態に応じて、新たな取り組みを行ったことで「外国の人と英語を使って関わりたい、話したい」という気持ちが高まった。
- 中学校との打ち合わせや、小中相互の授業参観などの取組を通して、小中の連携を図ることができた。
- アンケートにおいて「あなたは外国語活動の授業が好きですか」という質問を実施した。(3年生～6年生対象) その結果、およそ9割の児童が外国語活動の授業が好きだと答えたことが一番大きな成果である。様々な手立てを行い、研究を進めていったことがこの結果につながったと考える。



【令和4年12月実施】

#### 課題

- 常に児童の興味に即した掲示物を作成するのに時間がかかる。来年度以降につなげるシステム作りが必要である。
- 全職員で外国語の研究を行い、その指導方法や指導事項をおさえた授業づくりに取り組んだことで自信をもって学習指導を行えるようになった。引き続き授業改善を行っていく。
- 多様な評価方法の実施と評価方法の中学校との連携が必要である。

## 御指導いただいた先生方

### 【令和4年度】

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課教育課程担当指導主事	二口 法子	先生
東部教育事務所 学力向上推進担当指導主事	柳本 盛	先生
蓮田市教育委員会 教育長	西山 通夫	先生
蓮田市教育委員会 学校教育部長	槍田 光東	先生
蓮田市教育委員会 学校教育課長	堀内 健司	先生
蓮田市教育委員会学校教育課 副主幹指導担当兼指導主事	齋藤 圭司	先生
蓮田市教育委員会学校教育課 指導主事	鈴木 裕之	先生
蓮田市教育委員会学校教育課 指導主事	手塚 綾	先生
蓮田市教育委員会学校教育課 指導主事	寺田 不思議	先生

## 研究に携わった職員

### 【令和4年度】

校長	高橋 良一	教頭	五十嵐 正						
主幹教諭	篠田 直輝								
教諭	野呂瀬 麻世	山崎 厚子	本間 由佳	小川 孝子	櫛引 琴乃				
	神野藤 教悟	内田 章子	根岸 花奈	坪田 歩実	徳永 里佳				
	小栗 智恵子	杉谷 界成	舘野 沙季	徳村 大樹	山口 晴巳				
	石川 功多	児玉 透	北詰 健也	毛利 めぐみ	野田 友里恵				
	齋藤 陽奈	高橋 瑠奈	中谷 進也	小川 文郷	森田 温子				
	青木 佑樹	井上 千賀子	渡邊 瀬里乃	手塚 紘子					
養護教諭	川島 貴子	事務主任	湯村 剣士						
非常勤講師	鈴木 良子	初任者指導担当	熊倉 香菜子						
1年30人学級担当	進藤 江美								
2年30人学級担当	花野井 恵子								
生活支援員	福島 史奈・松鷹 昭子								
特別支援学級介助員	久光 直美・小山田 唯子・井上 有美								
教科指導補助	戸倉 めぐみ								
外国語サポーター	幾田 美津枝・矢嶋 寿恵								
スクールサポートスタッフ	柏木 朋子								
スクールカウンセラー	國森 久子								
図書補助員	椎野 早苗								
庁務手	海老原 秀男・石井 喜久男								



# Hasudaminami Elementary School

蓮田市立蓮田南小学校 研究紀要

蓮田市立蓮田南小学校

〒349-0111 埼玉県蓮田市東 6-9-11

TEL 048 (768) 0074

FAX 048 (768) 0610

---

---